

「パワー」(力)のことから考える

森田 ゆり (エンパワメント・センター主宰)

森田ゆりさんは、1997年から「エンパワメント・センター」を設立し、エンパワメントの視点を日々の実践の中で活かしていくための研修などを数多く行っています。

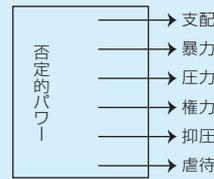
エンパワーという言葉は、エン(内へという接頭語)とパワー(力)から成り立っています。エンパワメントの意味を知るためには、パワー(力)とは何かという問いから出発しなければなりません。

わたしがパワーとは何かということを考えるようになったのは、1978年にメキシコでの生活を切り上げて、アメリカ合衆国カリフォルニア州へ移住してまもなく、非暴力主義による反核・反原発・アメリカインディアンの運動に関わる中でのことでした。巨大な資本と国家権力とによる人権侵害行為や環境破壊行為に抗議するためには、非暴力主義を貫くことが重要です。そのために70年代からアメリカでは、非暴力トレーニングを実施し、非暴力の思想と方法と技法を共有していきました。

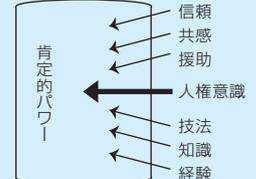
パワー(力)とは何でしょう。暴力、権力、圧力、などは否定的な力です。では肯定的な力とはどんなことでしょうか。たとえば知識はパワーです。信頼、協力、連帯、援助、経験も肯定的なパワーです。人の命を尊重する人権意識もまた肯定的なパワーです。

物理学では「力の大きさ」「力の方向」「力の作用点」の三つが力の働きを決定し、これを「力の三要素」と呼んでいます。暴力、権力などの否定的な力と、信頼、協力などの肯定的な力との一番大きな違いは、力の三要素の中の「力の方向」です。前者は外へ向かう力、外へ向かって押し付ける力。後者は内へ向かう力、内へ向かって蓄えられる力。エンパワメントとはこの内へ向かう力、内なる力を活用することといっても良いかと思えます。

否定的パワー



肯定的パワー(エンパワメント)



弱者救済という言葉があります。一般に弱者と呼ばれる人々、たとえば、子ども、女性、障害者、人種マイノリティなどは、力のない弱い人々なのではなく、弱者とさせられてきただけです。弱者の地位に押し込められているだけです。彼らの内にある力、能力、発言力、行動力、知識、経験を、子どもであるがゆえに、障害者であるがゆえに、女性であるがゆえに発揮できない社会の構造の中に組み込まれ、弱者とさせられてきただけなのです。

従来の福祉政策は弱者救済という慈善的発想から行われてきました。力の弱いかわいそうな人々を、力のある人々が助けてあげるというアプローチです。それに対してエンパワメントは、弱者を救済するのではなく、彼らの力を認めない社会、彼らが力を発揮する機会を奪っている社会の側の問題を指摘し、彼らが本来内に持っている力を十分に発揮できる環境を整えるという点で、従来の福祉とははっきりと一線を画すアプローチです。

エンパワメントとは、人は皆生まれながらに様々な素晴らしい力(パワー)を持っているという信念から出発する考え方です。子どもであること、女性であること、障害のあること自体が、それぞれの人の持つ力なのです。

そうぞう

8

2003.9*No.6

ビデオ

「国際人権を知っていますか～国連と市民のとりくみ～」

カラー/25分

使ってみて!
教材紹介

ヒューライツ大阪〔(財)アジア・太平洋人権情報センター〕では、「国際人権」に関するビデオを制作していますが、このたび第1巻の「国際人権を知っていますか」をバージョンアップしました。

人権はいまや一国だけの問題ではなく、国際的な基準や仕組みをつくり、国際社会全体で取り組むべき課題となっています。ヒューライツ大阪は国際人権を広く知ってもらおうと、1996年に「国際人権を知っていますか～国連と市民のとりくみ～」と題したビデオを制作しました。

その後世界はさらに変化し、そこで新たに生じた課題やそれに対応する新しい取り組み、組織などを加えて、このたび改訂版を完成しました。1948年の世界人権宣言採択の場面から、2001年にダーバンで開催された「国連反人種主義・差別撤廃会議」の様態など、世界の人権状況や国際人権の発展を映像で追いつながら、いくつかの主要な条約をとりあげ、その趣旨や内容などを分かりやすく紹介しています。また、国連の人権活動の主要機関である人権高等弁務官事務所や人権委員会などについても説明しており、国際人権に関わる基本的かつ包括的な学習に向けた内容になっています。



お問合せ●ヒューライツ大阪(財団法人アジア・太平洋人権情報センター)

TEL 06-6577-3577 FAX 06-6577-3583 E-mail webmail@hurights.or.jp